

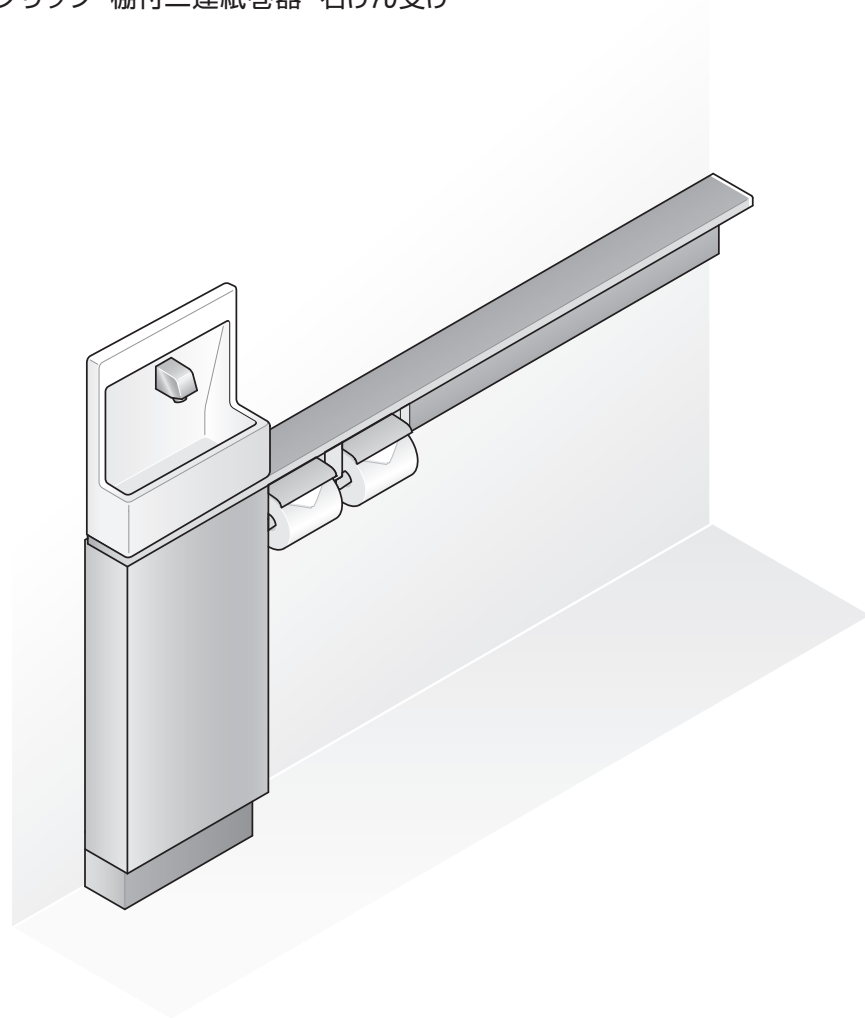
# TOTO

**施工説明書**

## スリムタイプC(埋込あり)

製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。  
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

下記商品の取り付けは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。  
自動水栓・手すり・ハンドグリップ・棚付二連紙巻器・石けん受け



### 工事店様へ

- 取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡しください。  
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
- 新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

# 安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。  
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。



**警告**

誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。



**注意**

誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される」内容です。







●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。






してはいけない「禁止」の内容です。



必ず実行していただく「強制」の内容です。

 分解禁止	<p><b>修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない</b> 火災や感電の原因となります。</p>	 ぬれ手禁止	<p>ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となります。</p>
	<p><b>アース(D種接地)工事がされていることを確認する</b> アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。 アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。</p>		 水場使用禁止
 <b>警告</b>	 禁止	<p>水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は<b>使用しない</b> 皮膚の炎症などを起こす原因となります。</p>	
		<p>指定する電源(交流100V)以外では<b>使用しない</b> 火災の原因となります。</p>	<p>ガタついているコンセントは<b>使わない</b> 火災や感電の原因となります。</p>
		<p>電源コード・電源プラグが破損するようなことを<b>しない</b> 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。</p>	<p>給水および排水管の真下部に<b>コンセントを設置しない</b> 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。</p>
		<p>屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付け<b>ない</b> 取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。</p>	<p>器具取付用のねじ固定部の壁裏には、<b>配管・配線を通さない</b> 火災や感電の原因となります。 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>
		<p>雷が発生しているときは、<b>電源プラグに触れない</b> 感電の原因となります。</p>	<p><b>コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない</b> たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。</p>
		<p>電源プラグは根元まで<b>確実に差し込む</b> 火災や感電の原因となります</p>	<p>壁固定ねじ取付位置には、<b>必ず壁裏を補強する</b> 商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p>
 必ず守る	<p>コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を<b>厳守する</b> 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。</p>	<p>電源プラグを抜くときは、<b>必ずプラグ本体を持って引き抜く</b> コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。</p>	
	<p>取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、<b>コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する</b> 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p>	<p>工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか<b>確認する</b> 商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。</p>	
	<p>商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを<b>確認する</b> 取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p>	<p>機器の設置は<b>専門業者が行う</b> また、電気工事は関連する法令・法規に従って<b>有資格者(電気工事士)が行う</b> 火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。</p>	
<p>コンセントは水や小水がかからない位置に<b>設置する</b> コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。</p>			

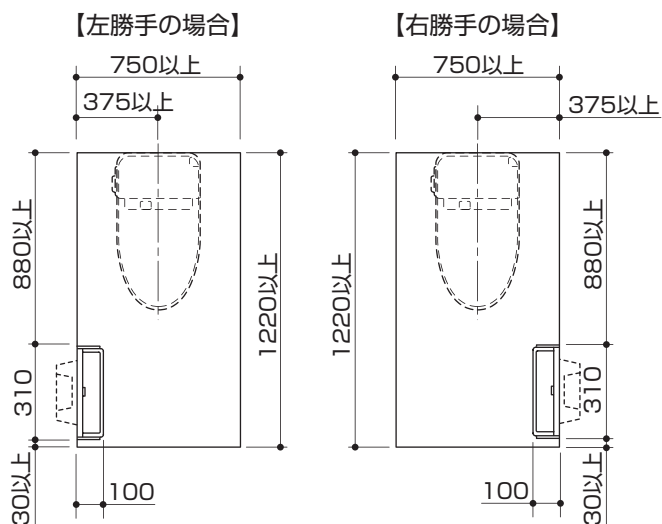
 <b>禁止</b>	<b>商品に強い力や衝撃を与えない</b> 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	<b>給水ホースが破損するようなことをしない</b> 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり加熱したりしない 給水ホースが破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	<b>止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない</b> 水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	
 <b>注意</b>  <b>必ず守る</b>	<b>カウンターの上に乗って作業しない</b> カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。	
	<b>推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する</b> 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。	<b>商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する</b> 商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。
	<b>カットした面は滑らかに仕上げる</b> 滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。	<b>商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する</b> 商品が倒れたり落下してけがの原因となります。
	<b>ねじ部の固定については、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する</b> 商品が破損し、けがをする原因となります	<b>手洗器等、器具周囲のすきま処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する</b> 水が浸入し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	<b>設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する</b> 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	<b>給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める</b> 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	<b>水準器を用いて水平に設置する</b> 収納物が落下してけがの原因となります。	<b>給水・排水接続は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する</b> 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
<b>工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する</b> 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	<b>凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う</b> 凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	

# 1 取り付け前のご注意

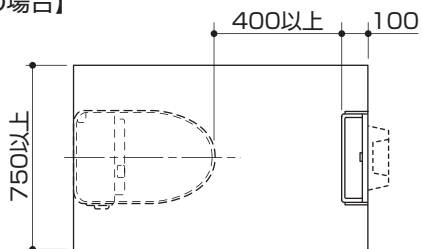
1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
2. 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
3. キャビネットの表面にテープ・シール等を貼らないでください。

## 1 設置寸法について

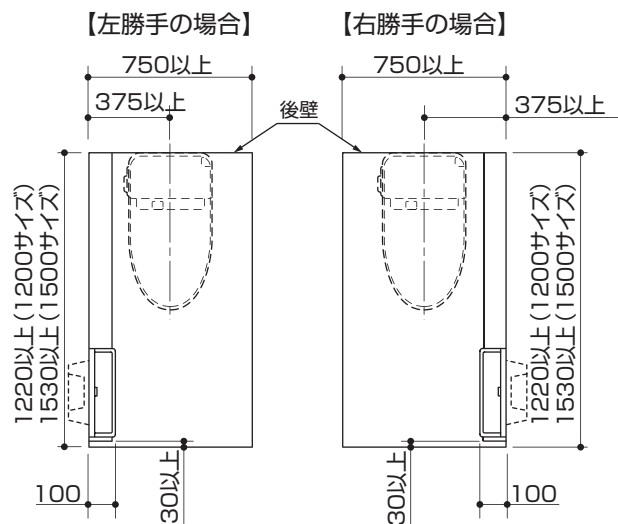
### 手洗器単体タイプ



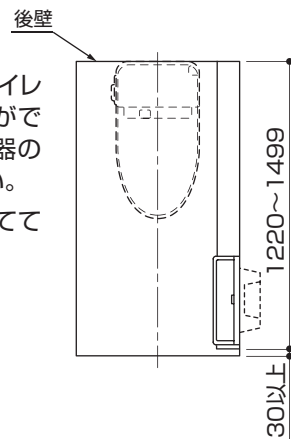
### 【対面設置の場合】



### カウンタータイプ(1200/1500サイズ)



- ・1500サイズのカウンターは、トイレ奥行に合わせてカットすることができます。カットする際は、周辺機器の取り合いを十分確認してください。
- ・カウンター端部を後壁に突き当てて取り付けてください。

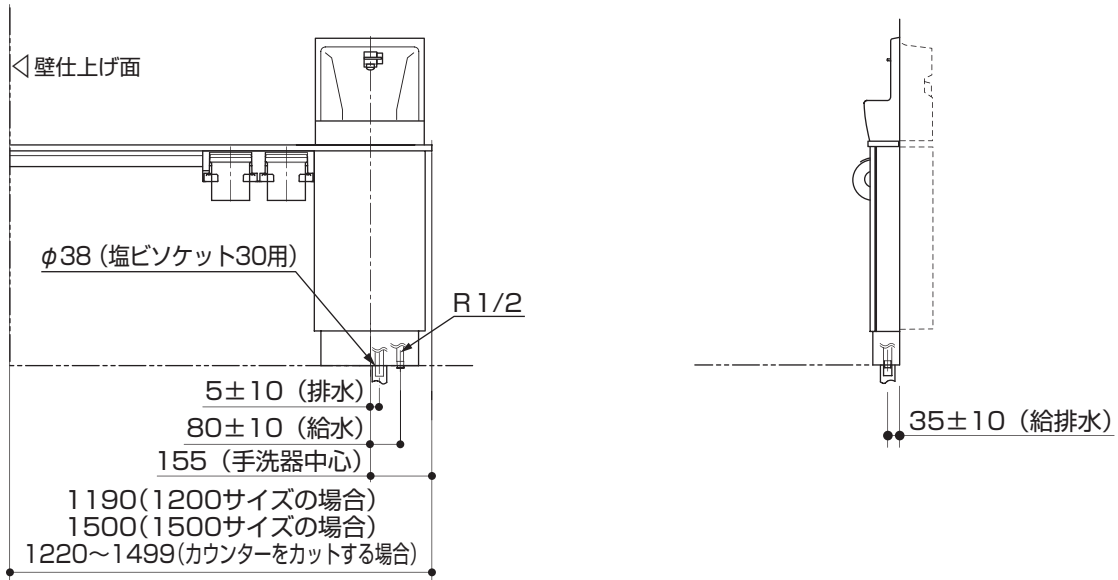


## 2 給排水位置について

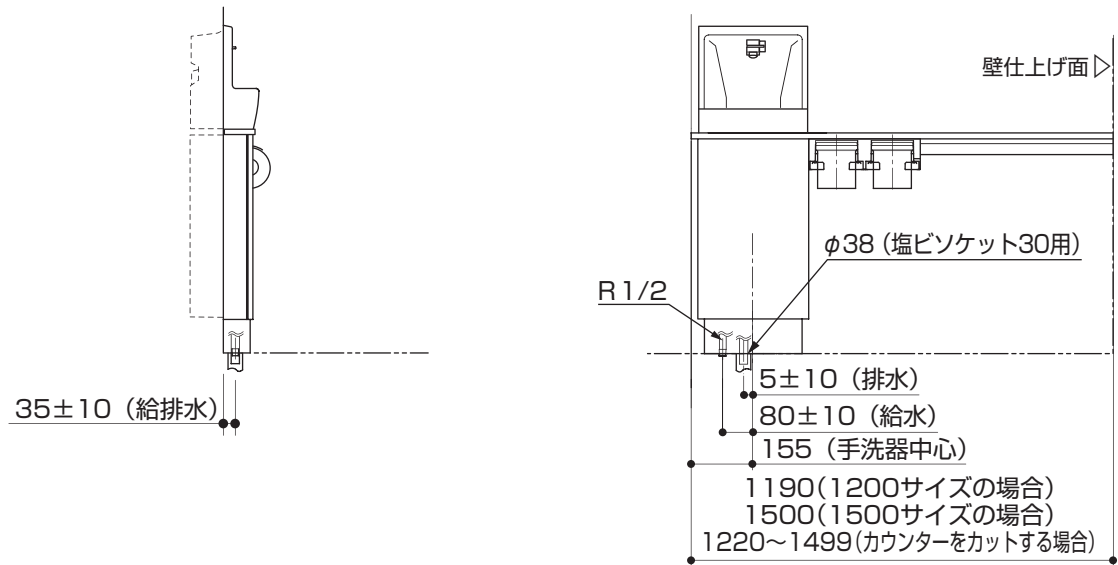
- ・設備側給水管の立ち上げは、壁・床仕上げ面と同一面にしてください。
- ・カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて給排水の取り出しを行ってください。
- ・給水圧力範囲は、最低必要水圧:0.05MPa(流動時)、最高水圧:0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲であることをご確認ください。

### 床給水・床排水の場合

#### 右勝手

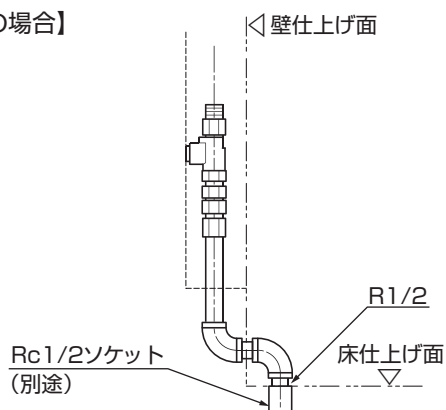


#### 左勝手

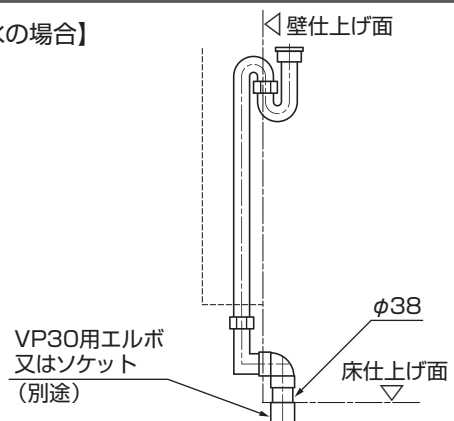


### 給排水管立ち上げ詳細

#### 【床給水の場合】



#### 【床排水の場合】

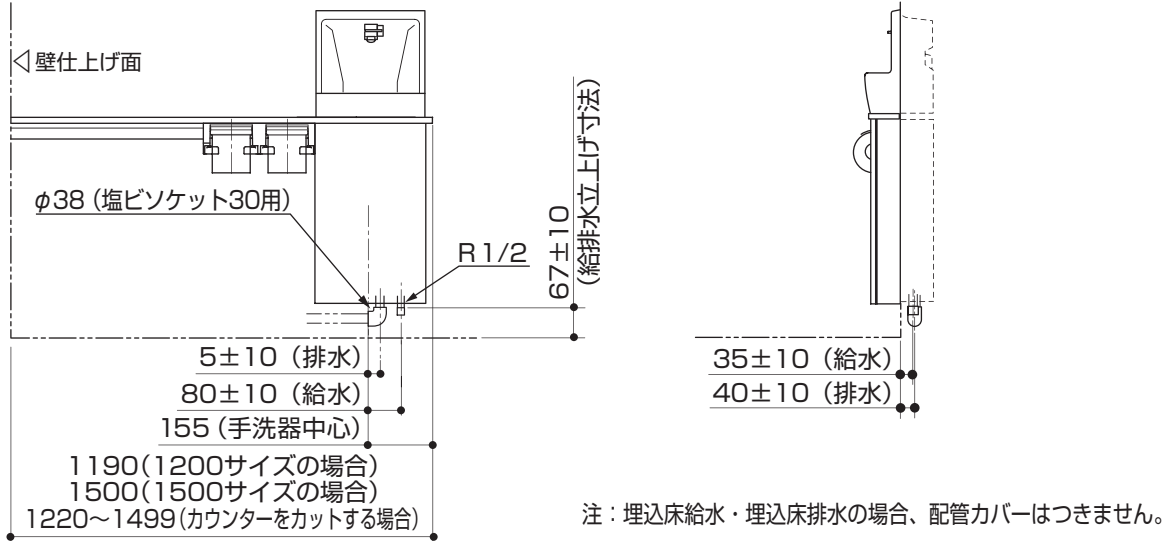


## 2 給排水位置について (つづき)

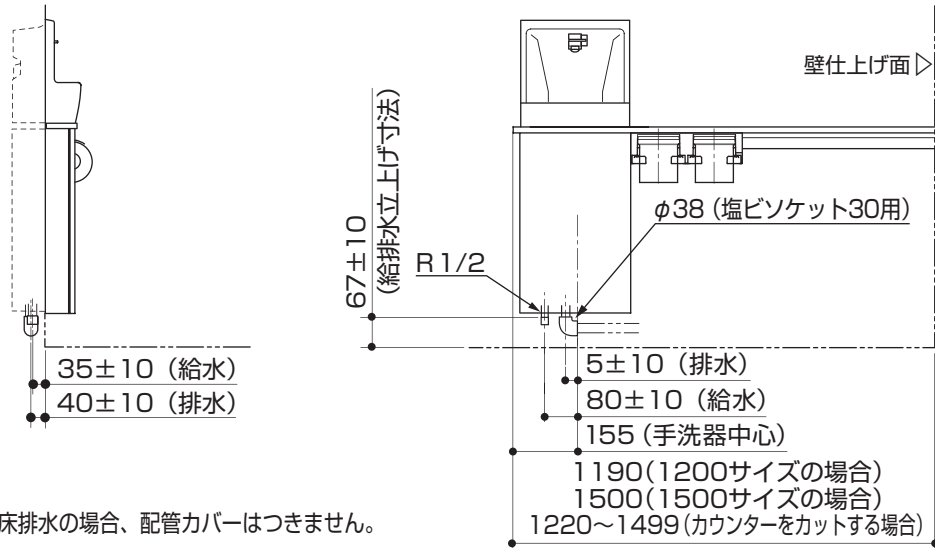
- ・設備側給水管の立ち上げは、壁・床仕上げ面と同一面にしてください。
- ・カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて給排水の取り出しを行ってください。
- ・給水圧力範囲は、最低必要水圧:0.05MPa(流動時)、最高水圧:0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲であることをご確認ください。

### 埋込床給水・埋込床排水の場合

#### 右勝手

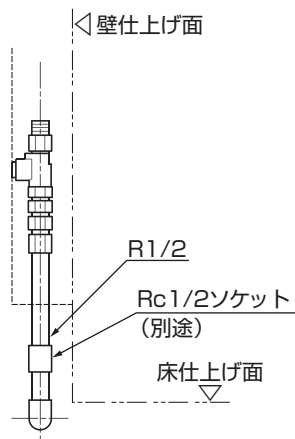


#### 左勝手

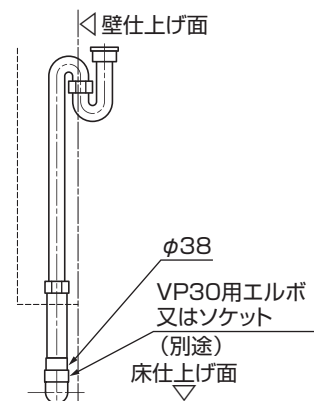


### 給排水管立ち上げ詳細

#### 【床給水の場合】



#### 【床排水の場合】

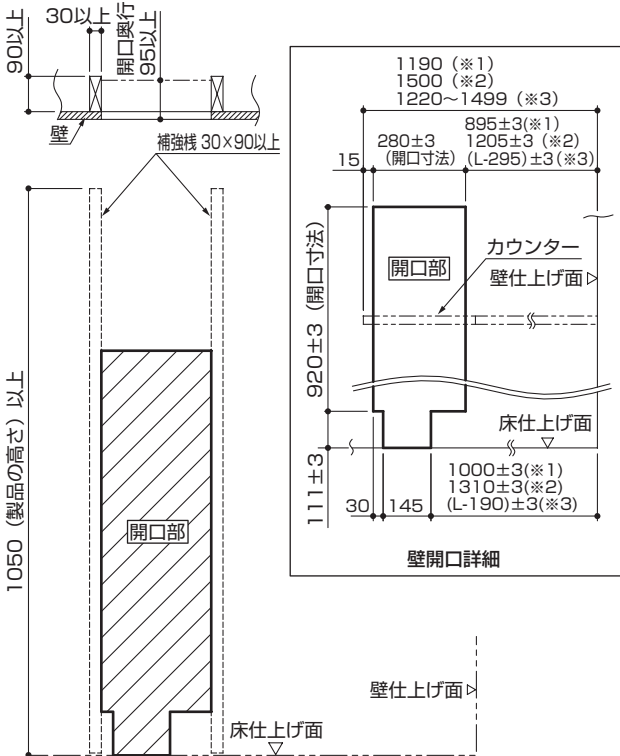


### 3 壁開口、補強棧について

下図に示す位置にあらかじめ開口が必要となります。

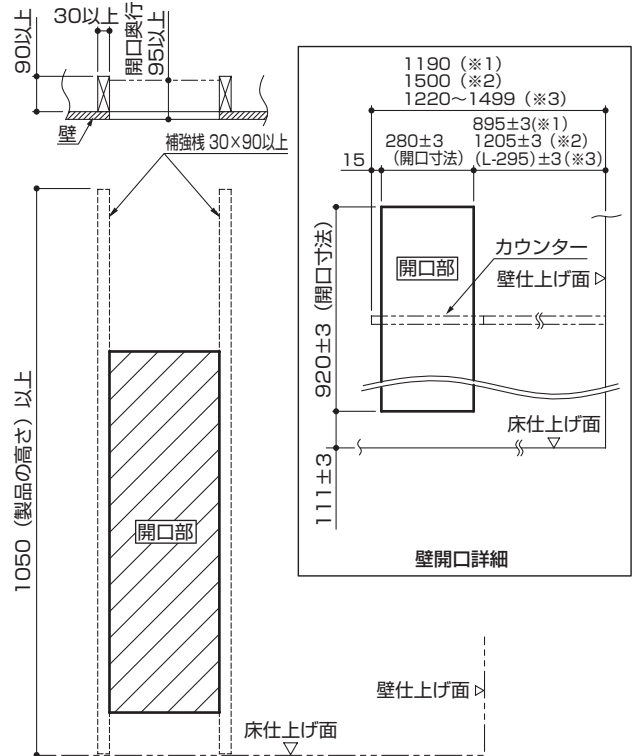
カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて開口位置を調整してください。

#### 床給水・床排水の場合



- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合

#### 埋込床給水・埋込床排水の場合

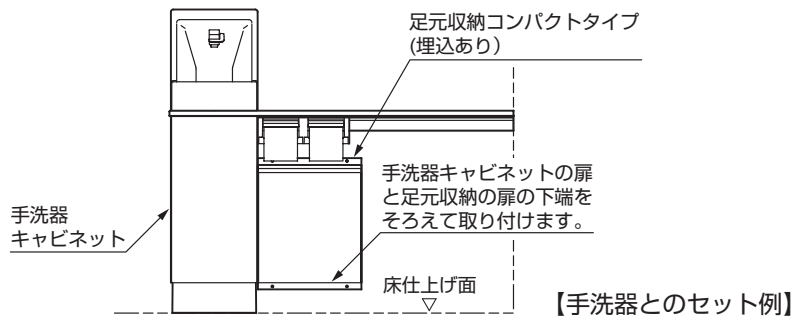


- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合

※上図は左勝手の場合を示しています。右勝手の場合は上図と逆の配置となります。  
 ※Lは壁仕上げ面からカウンター先端までの寸法

#### 足元収納コンパクトタイプ(埋込あり)を手洗器と連結設置する場合

取り付け位置については下記のとおりです。



### 3 壁開口、補強棧について (つづき)

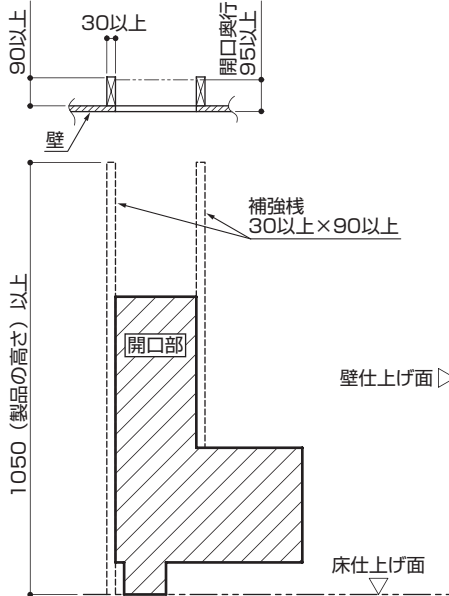
下図に示す位置にあらかじめ開口が必要となります。

カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて開口位置を調整してください。

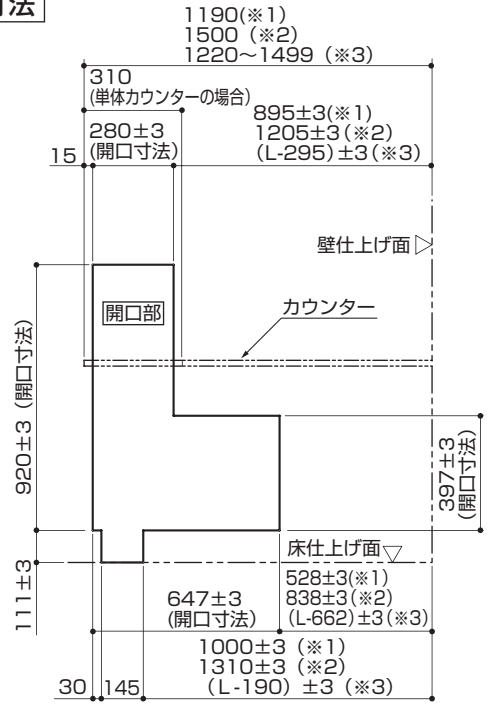
#### 床元収納コンパクトタイプ(埋込あり)を手洗器と連結設置する場合

##### 床給水・床排水の場合

補強棧詳細



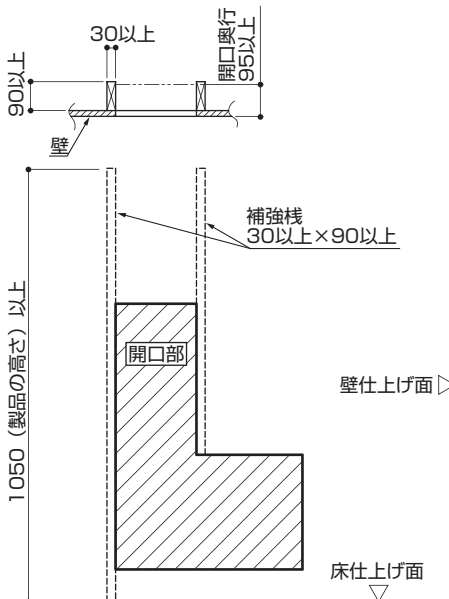
壁開口寸法



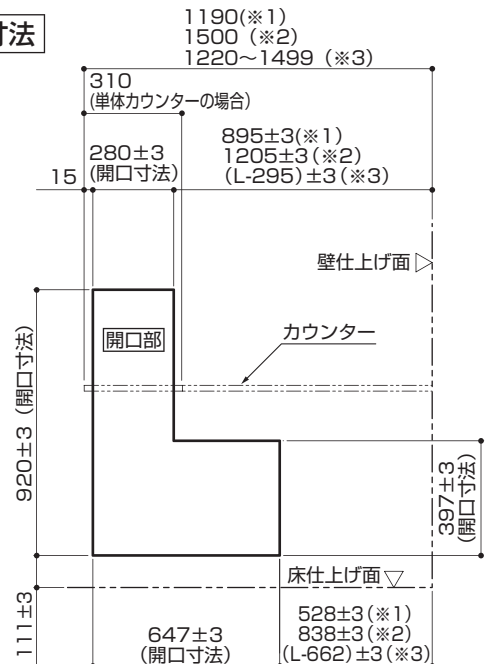
- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合
- ※図はL勝手の場合を示しています。R勝手の場合は上図と逆の配置となります。
- ※Lは壁仕上り面からカウンター先端までの寸法

##### 埋込床給水・埋込床排水の場合

補強棧詳細



壁開口寸法



- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合
- ※図はL勝手の場合を示しています。R勝手の場合は上図と逆の配置となります。
- ※Lは壁仕上り面からカウンター先端までの寸法

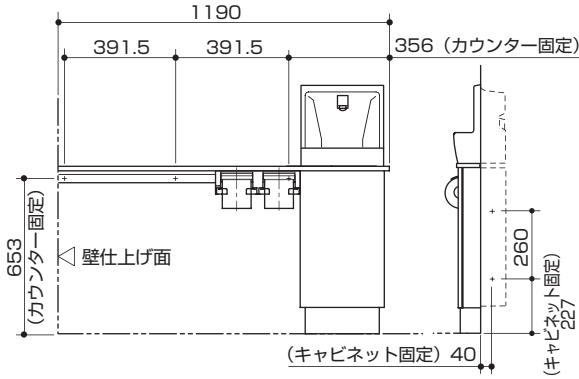


## 4 補強材について

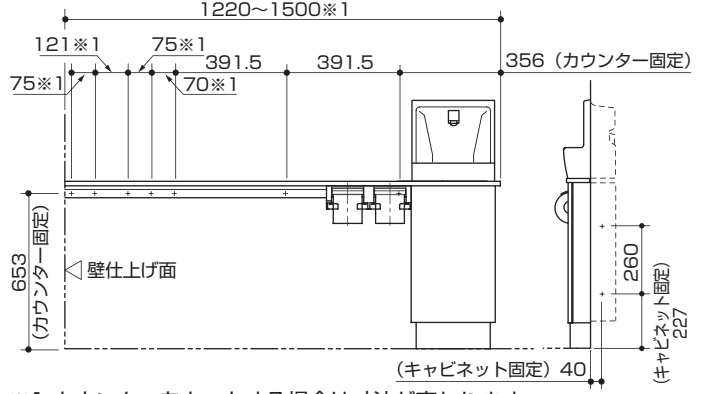
- ・あらかじめ壁固定位置に補強棧(幅90mm×厚さ30mm耐加重1961N/m(200kgf/m))  
または、厚さ12mm以上の補強合板(JAS規格相当品)を壁全体に入れておいてください。(建築工事)
- ・タイル、コンクリート壁の場合は、壁固定位置に下穴をあけ、コンクリート用プラグ(現場手配)を打ち込んでおいてください。

### 固定ねじ位置

【1200サイズ】



【1500サイズ及び・カウンターをカットする場合】

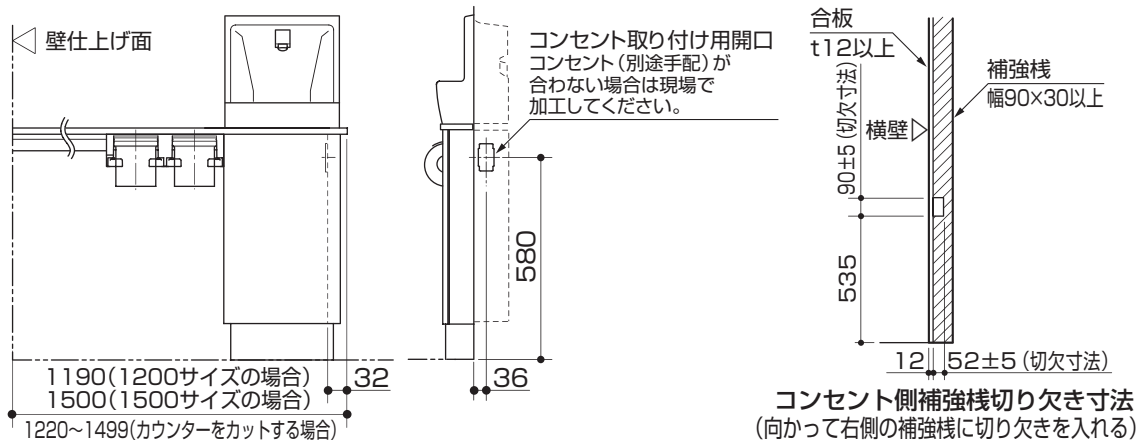


※1 カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

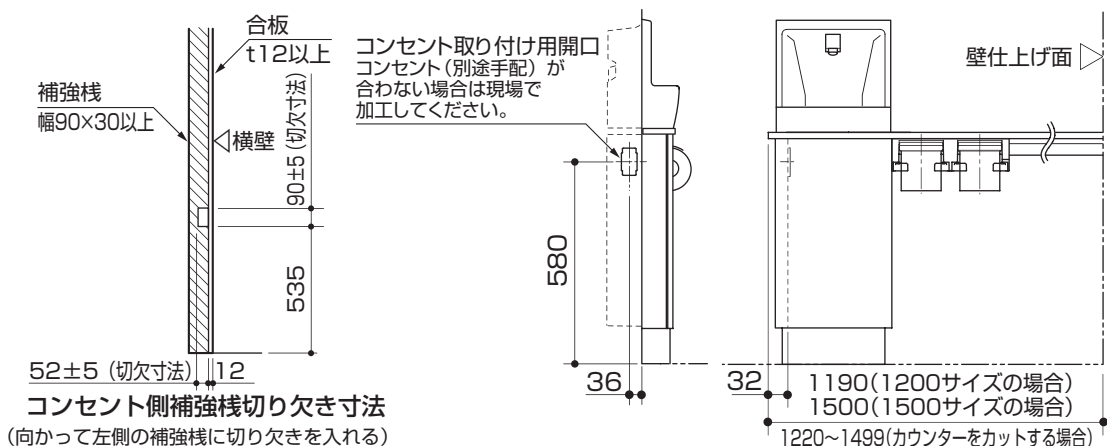
## 5 電気配線について

- ・自動水栓・電気温水器付自動水栓をセットされる場合、あらかじめ下図の位置に壁埋込式コンセント(電気温水器付自動水栓の場合は接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント)を設置してください。
- ・定格消費電力:自動水栓(常時0.4W(作動時0.6W))、電気温水器(505W)
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- ・あらかじめ下図のコンセント位置まで配線工事のみを行い、手洗器キャビネット取り付け後にコンセントを設置してください。

### 右勝手



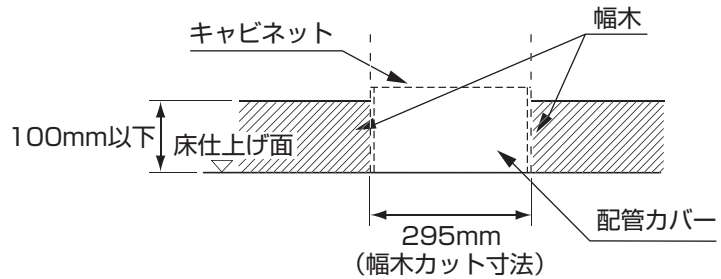
### 左勝手



## 6 幅木について

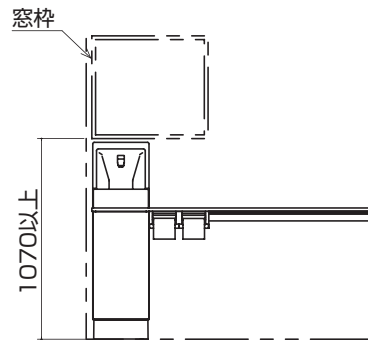
### 床給水・床排水の場合

右図の寸法で幅木をカットしてください。  
 ※埋込床給水・埋込床排水の場合、幅木カットの必要はありません。



## 7 窓枠について

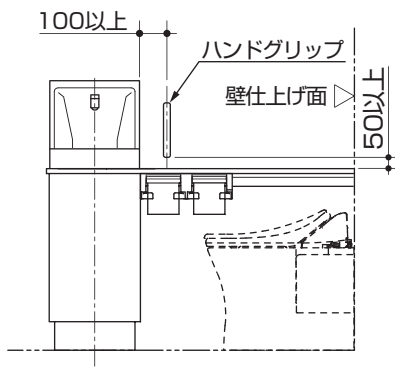
窓がある場合、右図のような制約が付きます。  
 事前に製品と干渉しないように注意してください。



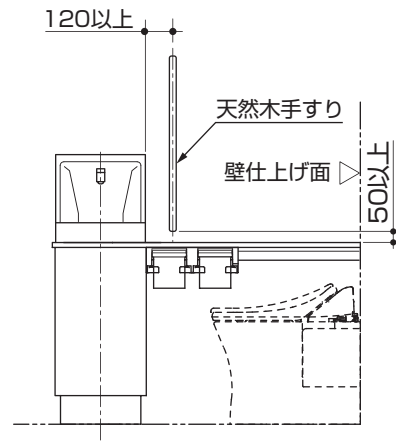
## 8 ハンドグリップ、天然木手すり取り付け位置について

- ①設置の際は、下図の有効寸法をお守りください。
- ②便器の前出寸法は機種によって異なりますので使用者が特定できる場合はその使いやすさに合わせて取付位置を決定ください。

### 1200カウンターサイズ

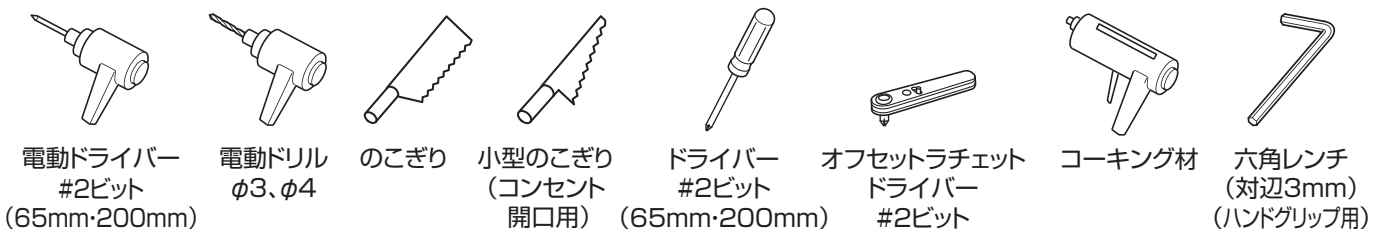


### 1500カウンターサイズ



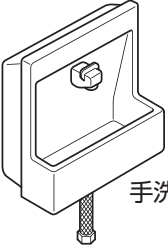
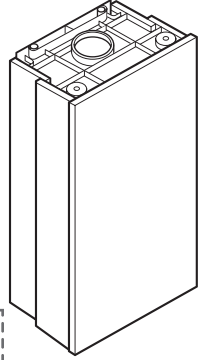
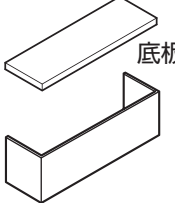
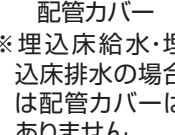








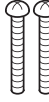






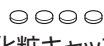
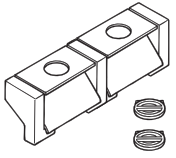
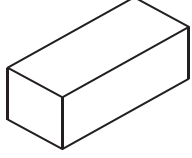
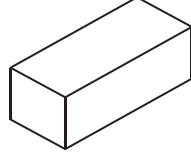
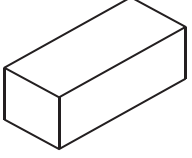
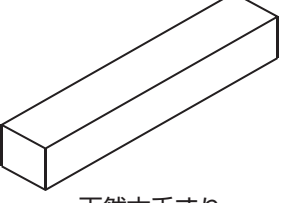

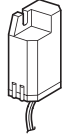
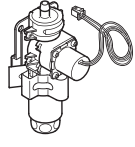

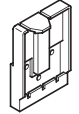



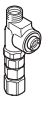

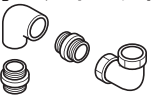
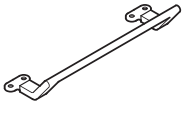


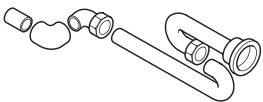
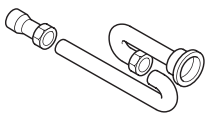
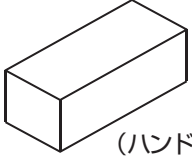
## 9 必要工具

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。



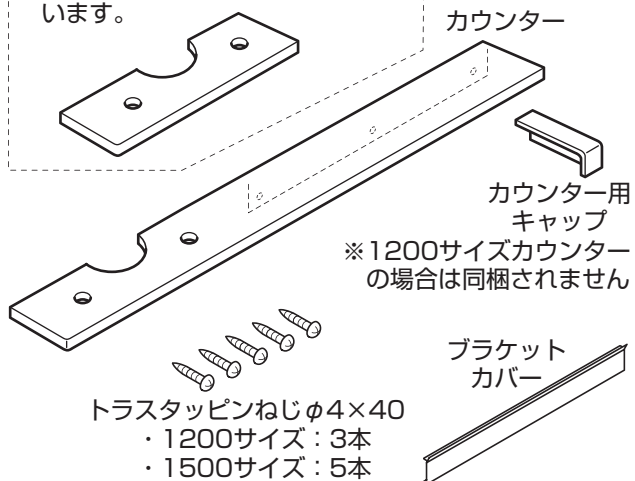
# 2 部品の確認

専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。

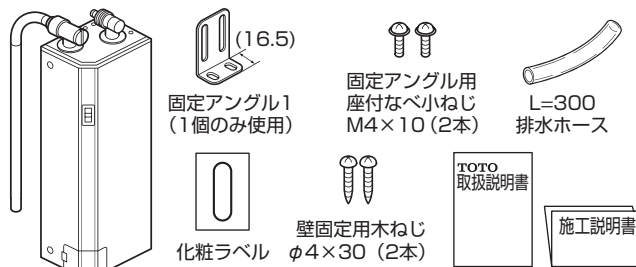
<p><b>手洗器部</b></p>  <p>手洗器</p>	<p><b>手洗器キャビネット部</b></p>  <p>キャビネット</p>  <p>底板</p>  <p>配管カバー ※埋込床給水・埋込床排水の場合は配管カバーはありません。</p>  <p>コンセントカバー</p>		 <p>排水金具</p>  <p>三角パッキン</p>  <p>スリップワッシャー</p>  <p>接続管</p>	 <p>トラスタッピンねじ φ4×30(2本)</p>  <p>固定ねじ φ4.5×50(4本)</p>  <p>固定プッシュ (4個)</p>  <p>トラス小ねじ M5×60(4本)</p>  <p>ワッシャー (4個)</p>
 <p>施工説明書 (本書)</p>  <p>取扱説明書</p>  <p>開閉工具</p>			 <p>スペーサー</p>	 <p>穴うめキャップ(2個) (足元収納を連結する場合のみ)</p>  <p>化粧キャップ (4個)</p>
<p><b>紙巻器</b></p>  <p>紙巻器 (カウンタータイプの場合のみ)</p>	 <p>棚付二連紙巻器 (単体タイプの場合のみ)</p>	<p><b>石けん受け</b></p>  <p>石けん受け (埋込あり手洗器)</p>	 <p>石けん受け (壁付)</p>	 <p>天然木手すり (天然木手すり付の場合のみ)</p>
<p><b>配管用化粧ペフ</b></p>  <p><b>自動水栓の場合のみ</b></p>  <p>コントローラー</p>  <p>自動水栓機能部</p>  <p>ホースクランプ</p>  <p>コントローラー 固定材</p>  <p>φ4×30 トラスタッピンねじ×3</p>	<p><b>止水栓</b></p> <p><b>ハンドル式水栓</b></p> <p>止水栓 給水管</p>   <p><b>自動水栓</b></p> <p>止水栓 給水管</p>   <p><b>給水エルボセット</b></p> 	 <p>タオル掛け本体</p>  <p>皿タッピンねじ φ4×16(4本)</p> <p><b>排水金具</b></p>  <p>クイック ファスナー</p>  <p>排水管 (床排水の場合)</p>  <p>排水管 (埋込床排水の場合)</p>  <p>ハンドグリップ (ハンドグリップ付の場合のみ)</p>		

## カウンター部

※単体タイプの場合、カウンターはキャビネット部の包装箱に入っています。

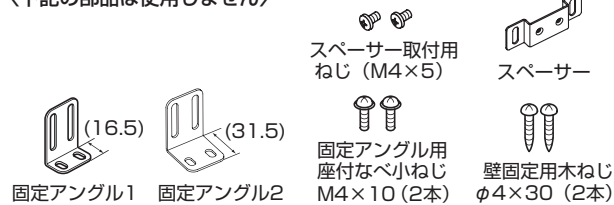


## 電気温水器(電気温水器付の場合)



電気温水器本体

<下記の部品は使用しません>



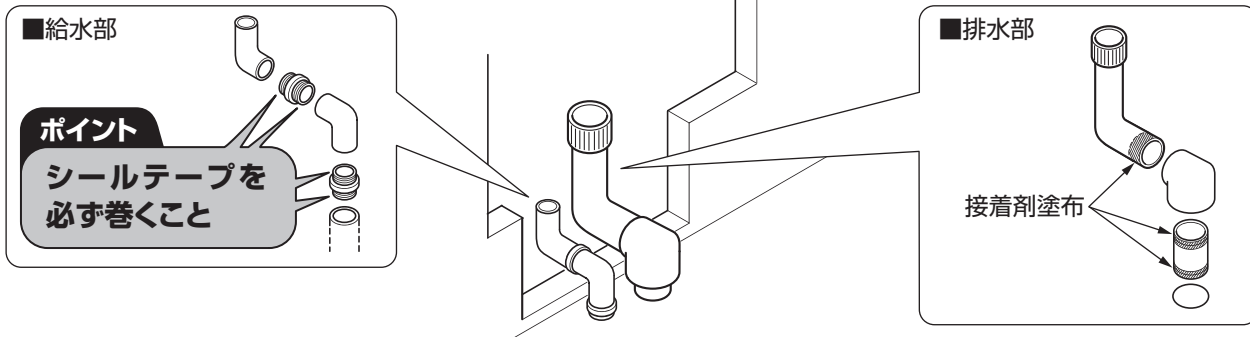
# 3 部材の取り付け

※この施工説明書では左勝手を説明しています。

## 1 偏心管を取り付ける (床給水・床排水の場合のみ)

現場の給排水位置に合わせて偏心管を取り付ける。

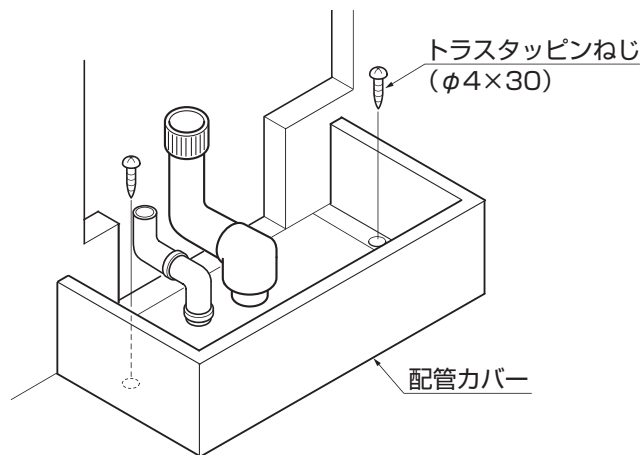
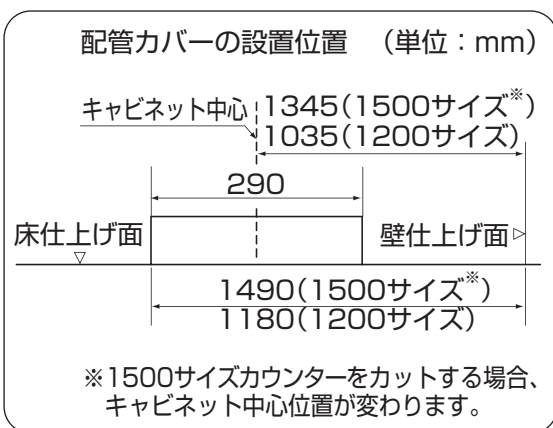
※埋込床給水・埋込床排水の場合は不要です。



## 2 配管カバーを取り付ける (床給水・床排水の場合のみ)

① 配管カバーを設置場所に仮置きし、床に下穴 ( $\phi 3$ ) をあける。

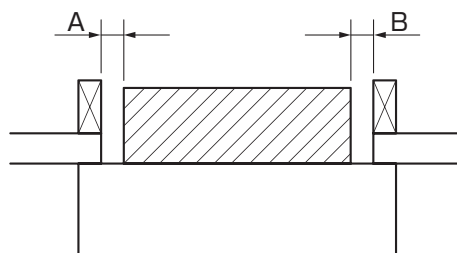
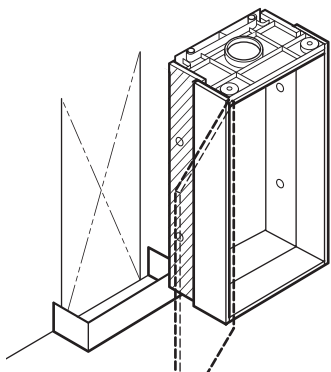
② 同梱のねじ (キャビネット固定用ねじセット) で固定する。



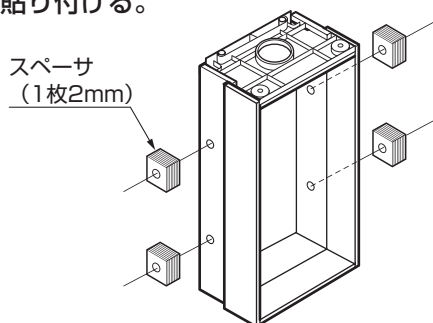
# 3 キャビネットの固定

## 配管カバーありの場合(床給水/床排水の場合)

- ① キャビネットを配管カバーに仮置きする。
- ② 開口部とのすき間(A・B)を測定する。

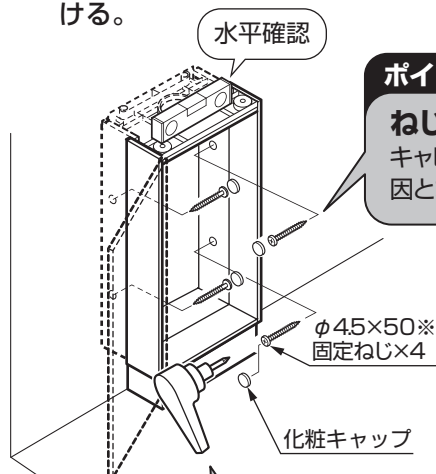


- ③ いったんキャビネットを外し、A・B寸法に合わせて固定部にスペーサーを貼り付ける。



- ④ 再度キャビネットを配管カバーにのせ、水平を確認する。

- ⑤ 4本のねじを交互に均等な力で固定する。  
【足元収納を併設する場合】  
連結側はねじで固定せず、下穴に穴埋めキャップを取り付ける。



### ポイント

ねじを締め過ぎない  
キャビネットが変形する原因となります。

※足元収納を併設する場合  
連結側に足元収納同梱の  
ねじφ4×25を使用する。

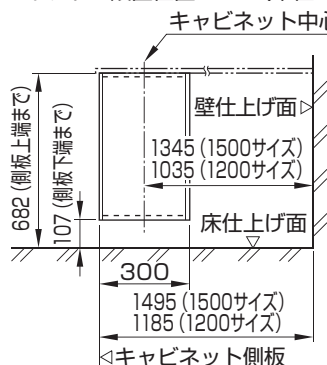
### ポイント

アングル型の電動ドライバーがあると便利です。  
事前にドリルでφ4の下穴を開けること。

## 配管カバーなしの場合(埋込床給水/埋込床排水の場合)

- ① 下図を参照し、壁に取り付け位置をけがく。
- ② 以降は上記を参照ください。

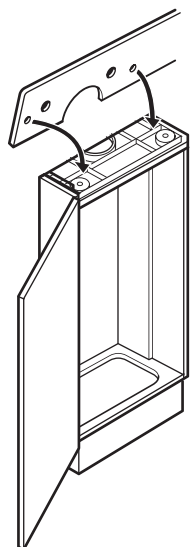
キャビネットの設置位置 (単位: mm)



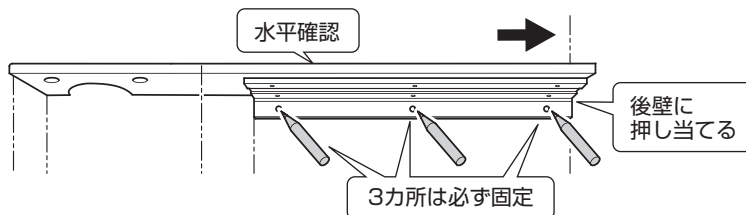
※1500サイズカウンターをカットする場合、  
キャビネット中心位置が変わります。

# 4 カウンターの取り付け

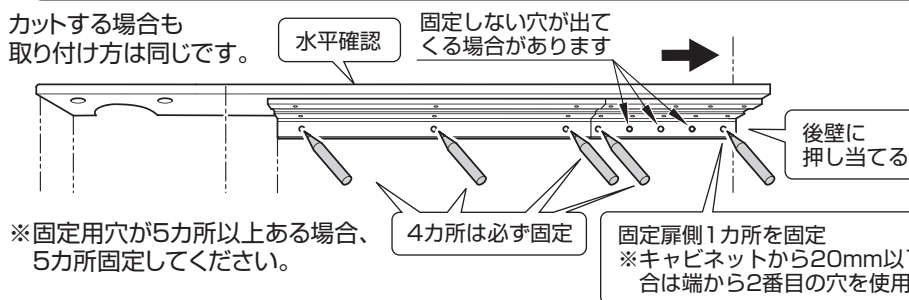
- ① キャビネット上部のダボをカウンター裏面の穴に差し込む。  
 ② カウンターの水平を確認し、壁に取り付け位置をけがく。



## 1200サイズカウンターの場合



## 1500サイズカウンターの場合

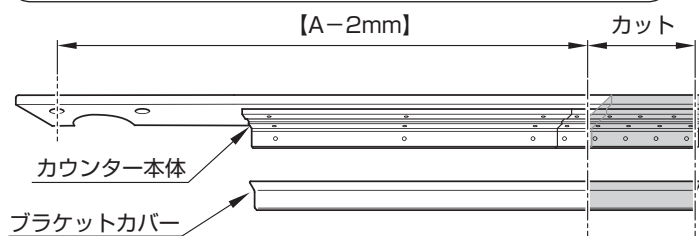


## 1500サイズカウンターをカットする場合

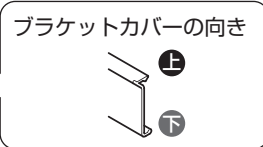
- ① カウンター本体・ブラケットカバーを[A-2mm]でカットする。  
 (A: 後壁からカウンター先端までの長さ)  
 ※Aは1220~1500mmの範囲となります。  
 1220mm以下になりますと、キャップの取り付けができません。

### 注意

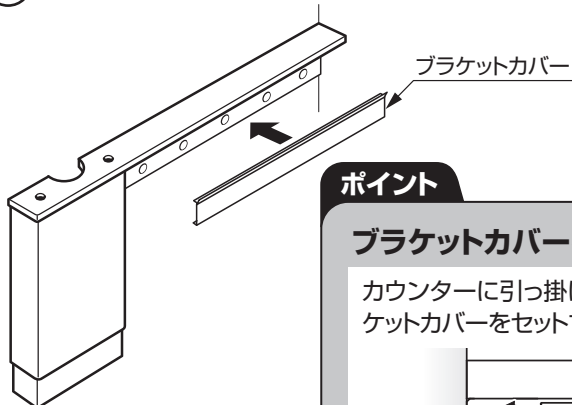
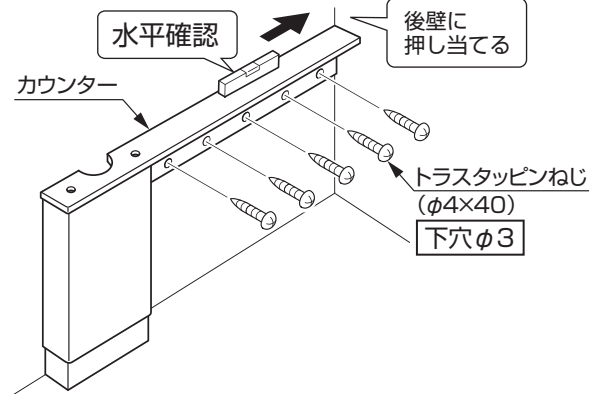
⚠️ カットした面は滑らかに仕上げ  
 お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。



- ② カウンターのカット面にカウンターキャップをはめる

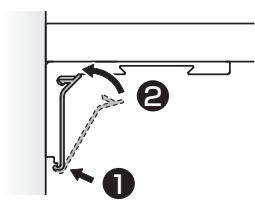


- ③ けがいた箇所の下穴(φ3)を開け、同梱のねじで固定する。  
 ④ ブラケットカバーを取り付ける。



### ポイント

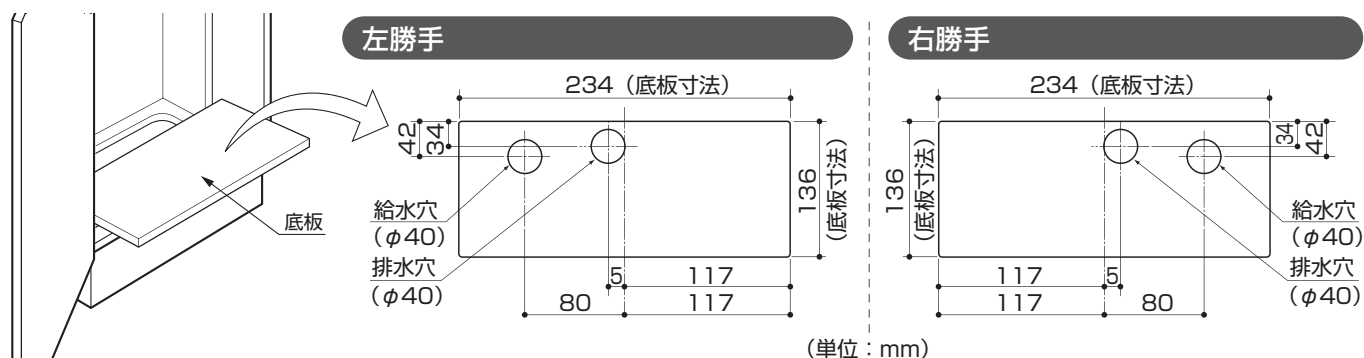
ブラケットカバーをはめ込む  
 カウンターに引っ掛けるようにブラケットカバーをセットする



※図は1500サイズの場合

## 5 底板の給水・排水穴あけ

現場の給排水位置に合わせて、底板を右図の寸法にて穴あけする。  
(底板は着脱式です。穴あけは自由キリを使うと便利です。)



※取り付けは「**7** 止水栓の取り付け」時に行う。

## 6 手洗器の取り付け

### 1 排水金具本体を取り付ける

- 右図のように排水金具を手洗器にセットする  
ねじ部にシリコン系シーラントを塗布し、接続管を締める

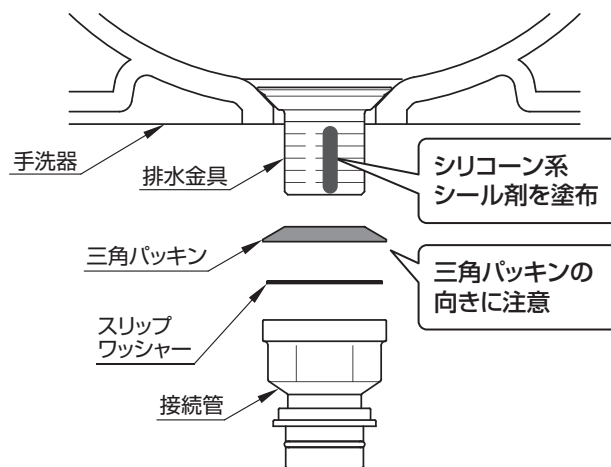
#### ポイント

締め付け力の目安としては、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。

#### 注意

**排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シーラントを塗布する**  
水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

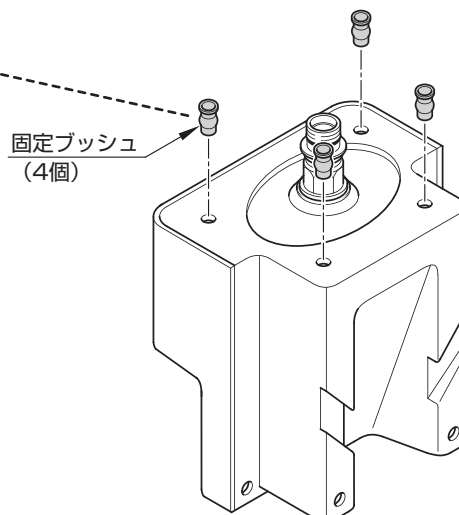
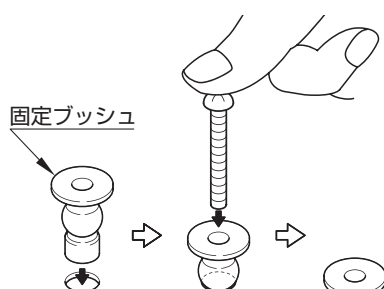
**接続管を締め過ぎない**  
排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



- 手洗器裏面の穴に固定ブッシュを4個取り付ける

#### ポイント

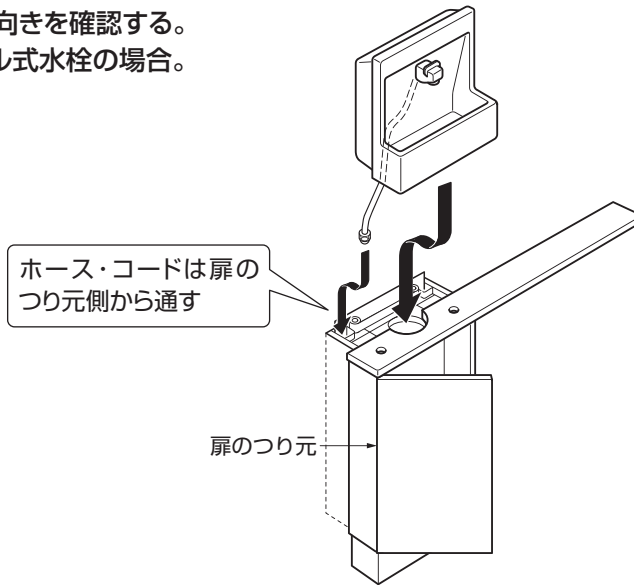
取付けねじで押すと容易に挿入できます。



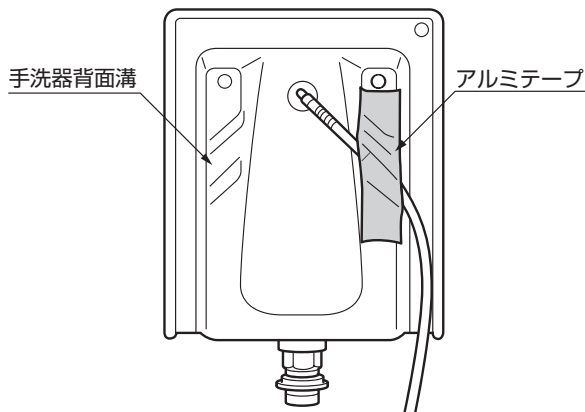
## 6 手洗器の取り付け (つづき)

### 2 手洗器を取り付ける

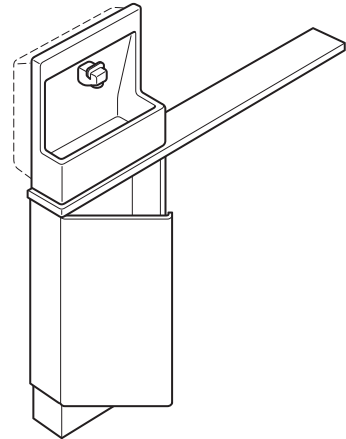
- ① 水栓ホースの向きを確認する。  
※図はハンドル式水栓の場合。



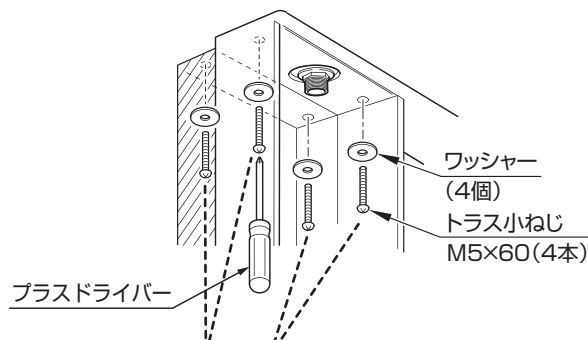
- ② 手洗器背面の溝に給水ホースを通し、アルミテープで固定する。



- ③ 手洗器を開口部に挿入する。



- ④ ねじで固定する。



手洗器キャビネットの下からトラス小ねじM5×60(4本)とワッシャー(4個)で固定する

※トラス小ねじは回らなくなるまでしっかり締め付けてください。

**ポイント**

**手締めすること**



## 7 止水栓の取り付け

① 設備側の配管に接続する。

### ポイント

配管用化粧ペフを  
忘れないこと  
排水管接続後に接着

② 底板(仮置き)をはめる。  
(止水栓は底板に通す)

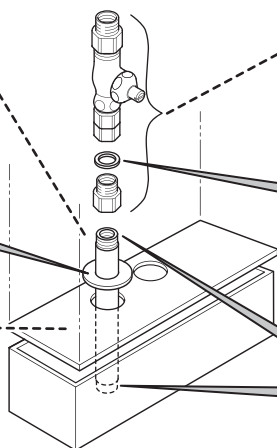
③ 部材を組み付け、  
①に接続する。

### ポイント

パッキンを忘れ  
ないこと

### ポイント

シールテープを  
必ず巻くこと



## 8 給水管の接続

### ハンドル式水栓の場合

① 給水フレキホースを接続する。

給水フレキホース  
↑ 水栓側

### ポイント

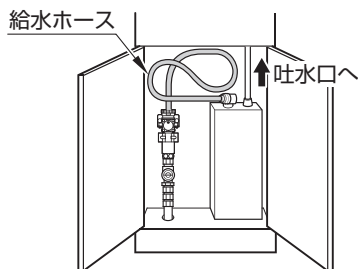
パッキンを忘れ  
ないこと

↓ 止水栓



### 電気温水器付き自動水栓の場合

参照 ※詳細は電気温水器に同梱の施工説明書を参照してください。  
※給水ホースの取り回しは、下図を参照してください。



### 自動水栓の場合

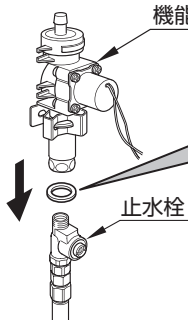
1 機能部を取り付ける

機能部

### ポイント

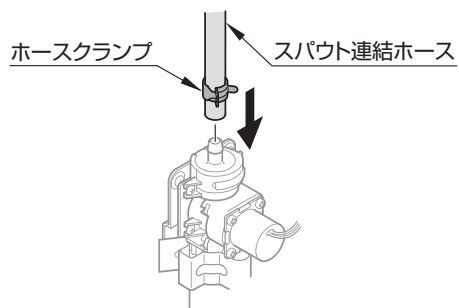
パッキンを忘れ  
ないこと

↓ 止水栓



2 スパウト連結ホースを接続する

スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する。

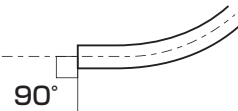


### 注意



必ず守る

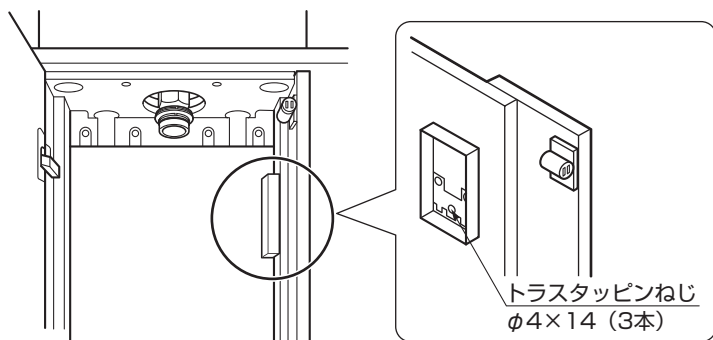
スパウト連結ホースを切断する際は、カッターなどを用い、切断面が垂直になるようにしてください。  
(斜めに切断すると水漏れのおそれがあります。)  
給水ホース接続後、軽く引っ張り抜けないこと。



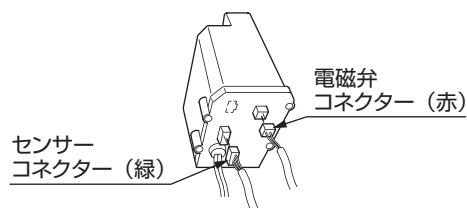
## 8 給水管の接続 (つづき)

### 3 コントローラーを取り付ける

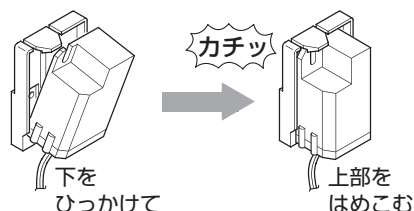
① コントローラー固定材をキャビネット内側板の下穴に合わせ取り付ける。



② センサーコネクター(緑)と電磁弁コネクター(赤)をカチッというまで差し込む。



③ コントローラーをコントローラー固定材にはめ込む。

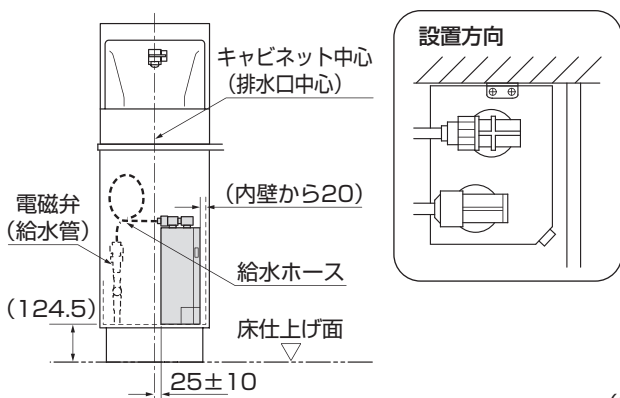


## 9 電気温水器本体の取り付け(電気温水器付き自動水栓の場合)

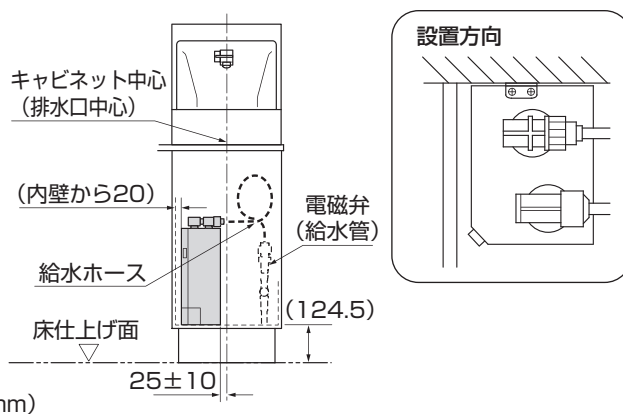
参照 ※詳細は電気温水器に同梱の施工説明書を参照してください。

※取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用してください。

左勝手



右勝手



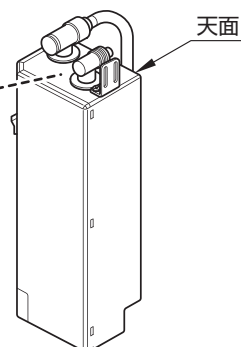
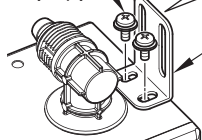
(単位: mm)

① 電気温水器に固定アングル1を同梱のねじで取り付ける

固定アングル用  
座付なべ小ねじ  
M4×10(2本)

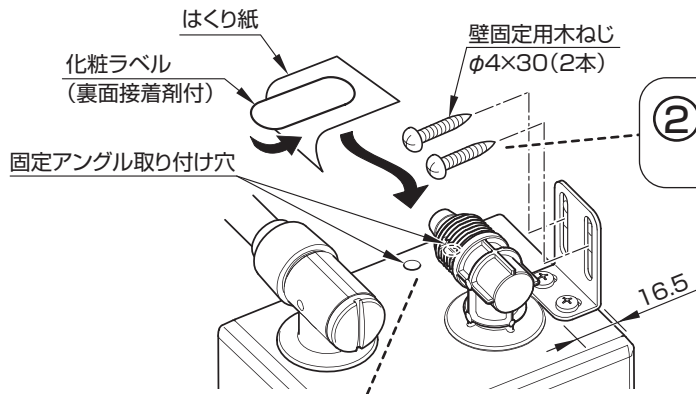
短辺側を  
本体に取り付ける

固定アングル1



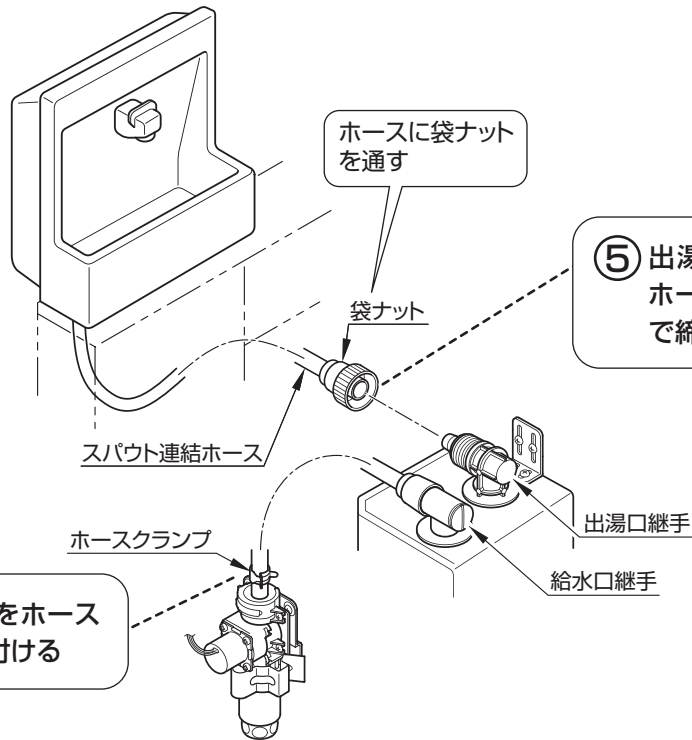
# 9

## 電気温水器本体の取り付け(電気温水器付き自動水栓の場合)(つづき)



② 本体を壁に同梱のねじで取り付ける

③ 化粧ラベルで電気温水器本体上部の固定アングルを取り付けない方(長辺側)の穴に貼り付けてふさぐ



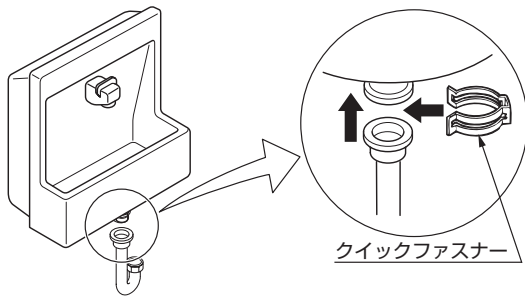
⑤ 出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける

④ ホースと機能部をホースクランプで締め付ける

# 10 排水管の接続

## 床排水 / 埋込床排水共通

- ① 手洗器排水口にトラップを差し込みクイックファスナーで固定する。

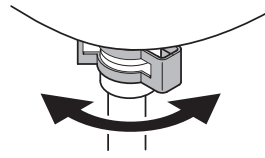


### 注意

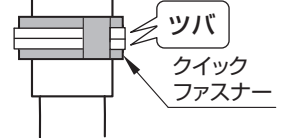


必ず実行

クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する



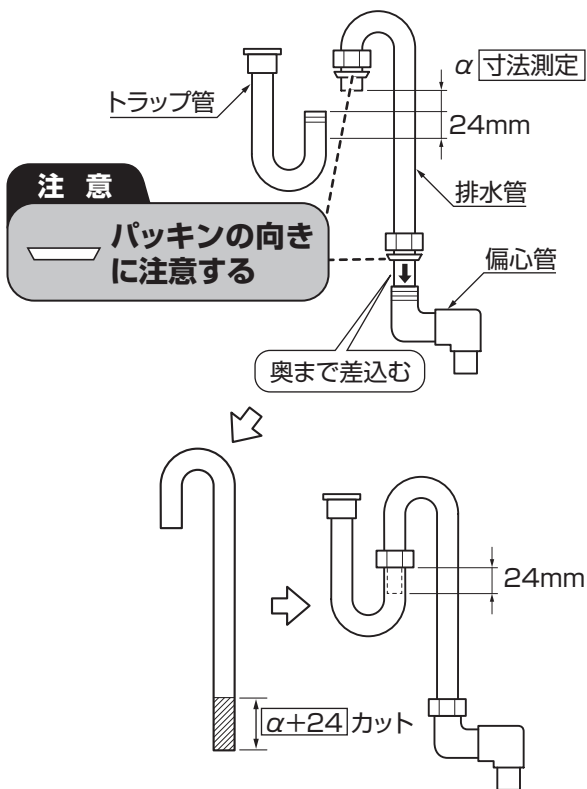
クイックファスナーの全周にツバがかかっていることを確認する



水漏れして家財などがぬれる財産損害発生の原因となります。

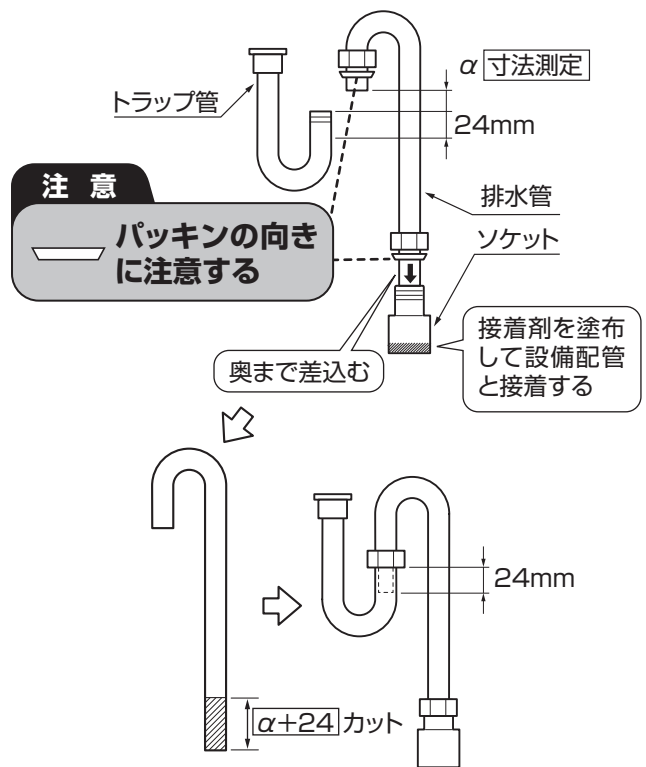
## 床排水

- ② 排水管と偏心管の袋ナットを緩める。
- ③ 排水管を偏心管へ差し込む。  
長さが合わない場合は、図のようにカット寸法を確認し排水管をカットする。



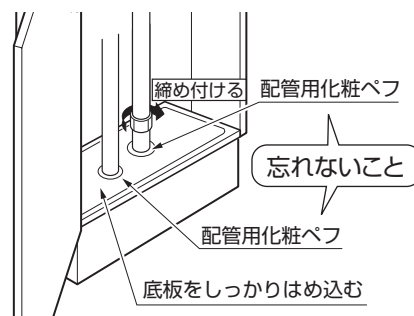
## 埋込床排水

- ② 排水管と偏心管の袋ナットを緩める。
- ③ 排水管を偏心管へ差し込む。  
長さが合わない場合は、図のようにカット寸法を確認し排水管をカットする。



## 床排水 / 埋込床排水共通

- ④ トラップおよび偏心管 (ソケット) と接続する。
- ⑤ 締め付け後、底板をしっかりとめ込み、排水管のすき間にペフを貼る。  
この時、止水栓のペフも同時に貼る。



# 4 器具類の取り付け

## 1 ハンドグリップ、天然木手すり、棚付二連紙巻器、石けん受け(壁付)の取り付け

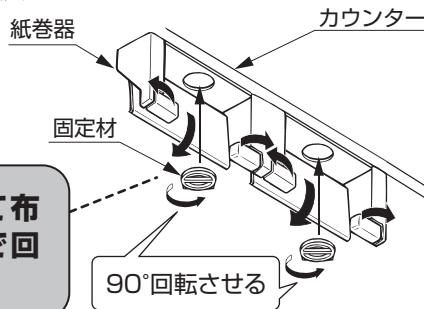
**参照** ※詳しくは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。

## 2 紙巻器の取り付け (カウンタータイプの場合のみ)

紙巻器を設置部に押し当て、図のように付属の固定ピースで90°回転させて取り付ける。  
固定後、紙切板を元に戻す。

### ポイント

固い場合は、当て布をしてペンチ等で回転させる

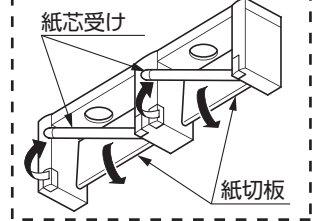


### 注意

固定ピースは確実に90°回転させて固定する  
落下の原因となります。

図のように紙芯受けを外側に開き紙切板を奥方向に倒してください。

芯なし対応品の場合

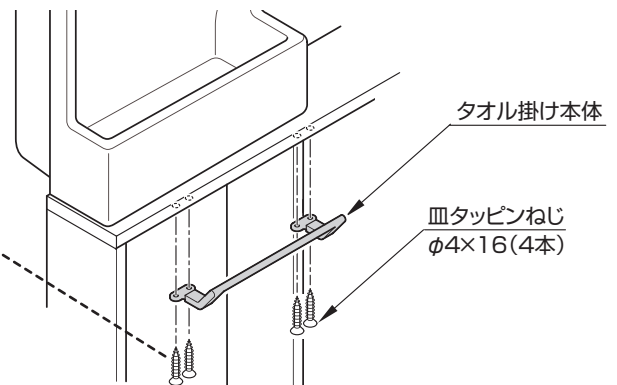


## 3 タオル掛けの取り付け (タオル掛けありの場合のみ)

カウンター裏面の下穴に同梱のねじで固定する

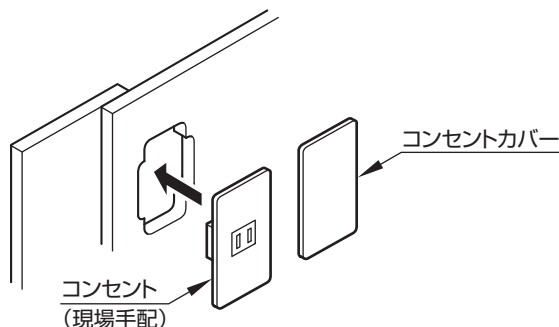
### ポイント

ドライバーにて手締めすること



## 4 コンセントの取り付け

キャビネット側板にコンセント(現場手配)を取り付ける。  
コンセントが必要ない場合はコンセントカバー(キャビネットに同梱)をはめ込む。  
※コンセント(現場手配)が合わない場合は、現場で加工してください。



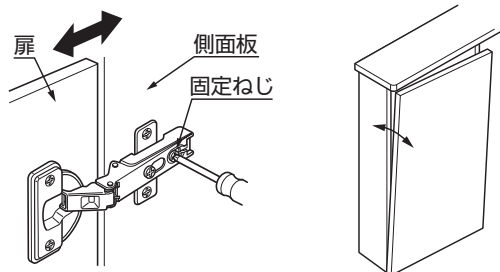
# 5 仕上げ・調整

## 1 扉の調整

キャビネット据付け後、扉の隙間が不均一だった場合以下の手順にしたがって調整し直してください。

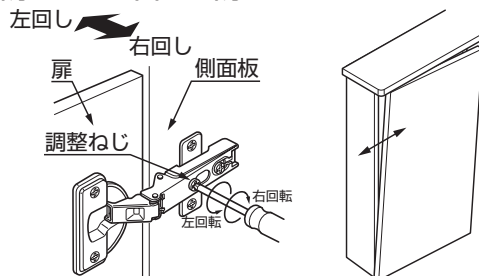
### 前後調整

丁番の固定ねじをゆるめて調整した後、締め直す。



### 左右調整

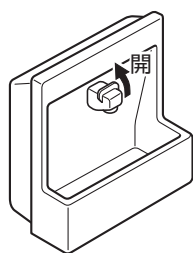
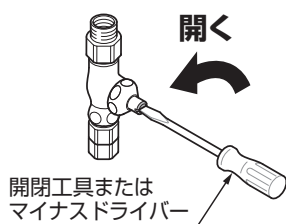
丁番の調整ねじを回して調整する。



## 2 吐水確認

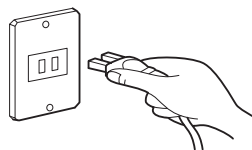
### ハンドル式水栓

- ① 止水栓を開ける。
- ② ハンドルを回して吐水を確認する。



### 自動水栓

- ① コンセントにプラグを差し込む。
- ② 止水栓を開けて手洗器に手を差し出し水が出ることを確認する。

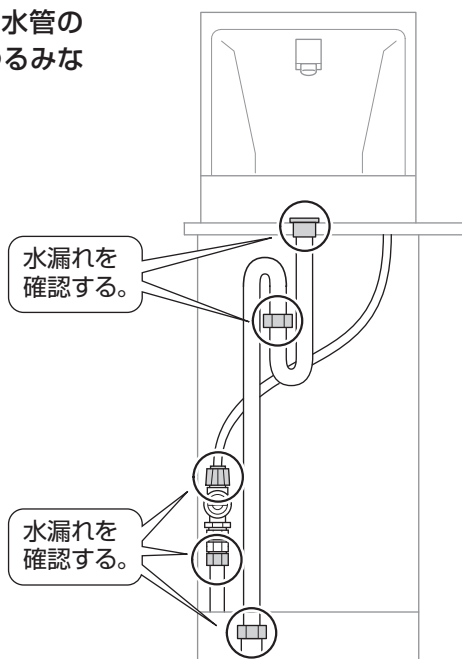


### 電気温水器付の場合

**参照** 電気温水器の梱包箱に同梱されている電気温水器の施工説明書の手順に従って吐水確認(試運転)を行なってください。

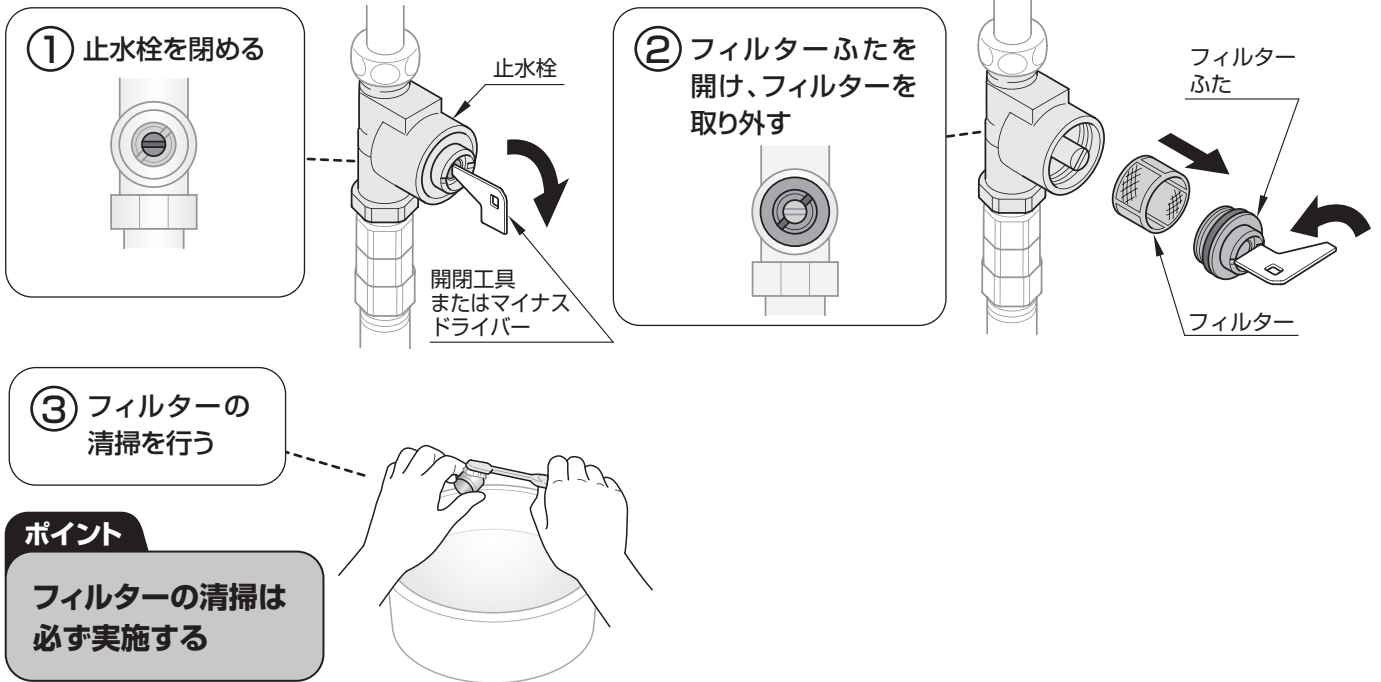
## 3 給・排水の水漏れ確認

2~3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れや袋ナットのゆるみなどが無いことを確認する。



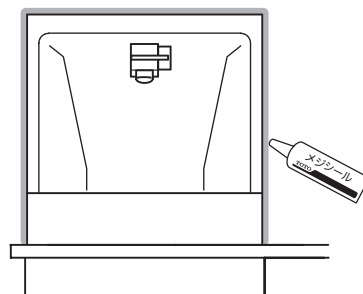
## 4 フィルターの清掃（自動水栓の場合のみ）

### 1 止水栓フィルターを掃除する（自動水栓の場合のみ）



## 5 シリコン系シール剤の塗布

陶器周囲にシリコンシール剤（別途手配）を塗布することをおすすめします。



工事店様へ

このたびはスリムタイプCを施工いただきありがとうございました。

UGX1002Z 